

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して。。。)

記入年月日	平成 19 年 9 月 20 日
事業所名	グループホームなでしこ 1階
事業所番号	2371501046
記入者名	職名 管理者 氏名 富田幸枝
連絡先電話番号	052-771-1203

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	コミュニティセンターの行事の参加、名東の日、自治会の催事に参加して地域の交流を図っている。(クマさん公園祭り) 施設内で行っている、夏祭りや餅つきには周辺地域の方々にチラシを配り参加して頂いている。 地域(学区)の清掃日にも参加している。	○	幼稚園、小中学校の児童・生徒等と交流を深め気楽に話し合えるような関係を目指している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に基本に戻ることで、日頃忘れがちな介護の理念をスタッフミーティングで確認し、理念を声に出して読み上げている。 貼紙と各自配布して常に目を通してしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議で意見交換したり、家族来訪時に話をして理念を伝えている。	○	地域の方々にも理念が伝わるようにする方法を検討していきたい。パンフレット配布時やなでしこ通信などに理念を添付できるようにしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時、隣近所の方とは挨拶をしている。回覧板を回したり頂き物等の付き合いがある。 グループホームに気軽に来れる雰囲気作りに取り組んでいる。	○	餅つき大会・夏祭りには近所の方も招待して付き合っているが日常でも気軽に立ち寄れる雰囲気作りに取り組みたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には進んで参加しているし、町内の方にも声をかけてもらう等、交流を深めている。 北一社商店街の催事に参加している。名東区千種区合同ウォーキング大会(平和公園)に参加。	○	地域のボランティアの受け入れを容易にしたい。 学区の運動会・老人会に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員の方に認知症を理解して頂くために見学や話し合いをしている。 学習会等に講師として出かけていないが推進会議党で勉強会をしている。	○	スタッフ・利用者と共に近所に住む一人暮らし等の高齢者の方の友愛訪問を行っていききたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かし、改善点はミーティングなどで話し合い項目ごとに改善に取り組んでいる。	○	職員の1・2Fでの固定が人員確保が思うようにできず一部実施されていない。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等は報告・話し合いは行っているが具体的な意見は出ず、サービス向上に活かされていない。	○	他グループホームより情報収集を行い会議議題を参考にしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	疑問点や問題点が発生した時に気楽に相談が出来る行政の窓口を利用出来るようにしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員自体は把握していないが必要性を感じる入居者、家族には活用出来るよう支援している。	○	職員に対しては、代表者や管理者が対応はしているが、これを職員一人ひとりが入居者の権利擁護が必要な時があることを学ばせると共に勉強会や研修の機会を作っていくよう心掛けたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護方針のもと、身体拘束は行わないということをすべての職員が認識しており虐待防止に努めている。 スタッフミーティングなどで具体例を出して話し合っている。	○	虐待防止、拘束等の研修や勉強会の機会を作っていききたい。見えない所での介護にも注意し細心を払って行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入居希望者や家族に対して重要事項説明を丁寧に行い、利用料金、対応できること、できないこと、医療連携体制など、入居希望者や家族が十分に判断できるだけの説明を行っている。 契約解除に際しても、十分な説明と話し合いを行っている。 解約時には一方的な解約とせず、話し合いの上での	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員が常日頃、話し合い要望がある場合は改善に努めている。又、意見箱を設置している。	○ 意見を聞き、外部にもその意見を反映できるように傾聴ボランティアなどを受け入れていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時、手紙等で現状を報告し、特変時は電話等で直接連絡している。 必ず家族の確認は取っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情については窓口を設け対応している。第三者の窓口は設けてはいないが家族等の意見・苦情を運営に反映している。 行事を含む家族会は実施している。	○ 外部者への不満・苦情を表せる機会を設けるための苦情処理の窓口を掲げたい。 年に1～2回は家族会を開催したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は職員の意見を聞く機会を年に2回面談を通し、意見を反映させる取り組みを行っている。 管理者が一人ひとりの職員に声をかけ、いつでも相談できるような態勢を取っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員と入居者がゆっくりとした流れの中で生活支援できるように必要な時間帯に人員を確保している。 常勤を増やし、日中の職員体制と夜勤の回数を減らすよう取り組んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の固定への配慮に取り組んでいる。職員同士が引き継ぎを行い、生活環境を変えないようシフトの工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフミーティング等で勉強会を取り入れ介護の問題点等を学んでいる。外部の研修等に参加したり、交換研修にも進んで取り組んでいる。	○	他グループホームの見学を進んで取り入れたい。運営推進会議にもスタッフの参加を呼びかけ地域ぐるみの勉強会に取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟しているが相互訪問等の活動をするまで至っていない。	○	管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じてサービスの質の向上をはかっていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に1～2回親睦会を開催している。	○	スタッフの誕生日会やボーリング大会、猪子石原との交流会なども取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	外部研修や猪子石原との交換研修、スタッフミーティングでの勉強会などに取り組んでいる。運営者から気づいた事などその都度、回覧等でスタッフの意識向上を図っている。	○	他のグループホームへの見学や研修にも取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	信頼関係の確立を図るため、希望・不安を把握することを実施している。本人から相談があった場合、話をよく聞き安心できるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からよく話を聞いて、家族の苦しんでいる事・困っている事を把握し、信頼関係を築くことができるように取り組んでいる。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まで利用していた施設等の看護サマリー、介護サマリーをいただき利用施設の利用状況等も電話対応にて解決している。 十分にアセスメントした上で家族とも時間をかけて話し合い支援を行っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居サービスを1週間～10日間利用して頂き、馴染みの関係作りをした上で安心してサービスを利用して頂いている。 本人の納得が得られるように馴染みの関係を作り上げる雰囲気作りに取り組んでいる。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の興味のある事、得意な事を家族や本人から聞き出し、それを引き出せるよう支援している。その人らしい尊厳を大切にされた関係を築いている。	○ スタッフミーティング等で理念の再確認をし、本人の立場に立ったケアが確立できるように取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望や意見等は来所の際、話し合い情報情報交換し、共有している。来所が困難な家族に対しては電話で意見交換をしている。家族には口頭で伝えたりケア記録の開示を行い、目を通して頂いている。	○	年に1～2回家族会を設け何でも話せる場を提供し、共に支え合う関係作りに取り組んでいきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	できる限り互いの関係が疎遠にならないように、家族が気軽に来訪できるように取り組んでいる。疎遠になった関係の場合は施設の行事に家族を招待して本人と家族がより良い関係になるように取り組んでいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人から連絡がきた場合、関係が途切れないように電話したり、手紙で支援している。	○	外出の機会を設け本人の馴染みの場所へ出かける事が出来るように外出支援に取り組みたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	情報を把握し一人ひとりが孤立しないように、入居者同士の関わり合いを大切にして職員が間に入りいい関係が築けるように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後もボランティア活動等で関係を持続している。夏祭りや餅つき会にも声をかけ招待している。出来る限り良好な関係を電話や手紙などで保てるように取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族より意向を聞き取り、要望・希望を把握してケアに反映させている。	○	スタッフの考え方等でその人の思いを抑制しない様に日常生活を通して注意ミーティング等でスタッフの意識向上に取り組んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にはセンター方式の記入をしていただき生活歴等の把握をしている。センター方式の記入も細かく記載されていないことが多い為さらに聞き取りして把握に努めている。	○	入居前サービス提供を受けている場合、直接ケアマネージャーやサービス事業所に連絡をし情報の聞き取り等を出来るように取り組んでいきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りを徹底し、現状の報告をすることにより変化があった場合の対応、その日の予定、アクティビティ、往診等の連絡・報告に取り組んでいる。出来る事出来ない事の把握をし活かせる場を提供して個別に対応できるような環境作りに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスを開催し、スタッフで情報交換しており意見を取り入れ、プランに反映させている。来訪時に家族からの情報を入手し、要望・意見を取り入れ作成している。	○	日常生活における課題となる点を把握できるように職員一人ひとりの自覚を促し積極的な意見が出せるように取り組みたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度のプラン見直し、修正を実施し、入院・退院となった場合の変化に応じた見直しも行っている。現状に即したプランの作成に努め見直しの根拠も明らかにし家族・本人の希望・意見を取り入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや対応を記録して、実施に活かせるように記録にし、記録に沿った見直しも実施している。	○	日常生活の中での問題点や個別の情報、家族の意見などの情報を細かく計画作成担当者が把握できるように取り組みたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問医療との連携により、緊急時の対応を行っている。本人の要望による外出、付き添いは行っている。地域のコミュニティセンターを利用した支援には取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員は運営推進会議に参加して頂いている。ボランティアは入居者の趣味の相手として参加。地域のコミュニティセンターと連携しながら催事等に参加できるよう努めている。	○	地域の消防訓練と心肺蘇生法の講習に参加できるよう取組んでいきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	傾聴ボランティアの支援・福祉理美容サービスの支援を行っている。	○	地域や学生ボランティアなども募っていけるよう取組んでいきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	音楽ボランティアによる演奏は実施している。	○	地域包括支援センターと協働していないので今後は取組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族との連携をとり、医療機関への受診について説明し、家族に選択してもらっている。(往診・家族同行による通院) 受診の際、家族に連絡し、かかりつけ医に受診できるように支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に対して理解のできる往診医等にお願ひし、治療を受けられるように支援している。	○	認知症専門医を紹介できるように取組んでいきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間対応の訪問医療の看護師との連携により支援している。 看護職員を確保していないが、いつでも対応できるように訪問医療の看護師と協力関係を築いている。	○	医療に携わる看護師を置き、ターミナルケアの充実に向け取組んでいきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族、本人と話し合い、退院に向けた支援と病院関係者との情報交換、相談に取り組んでいる。 入院中も入居者の状態の把握をし、規定範囲以内で居室の確保などを行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度な入居者に対するの取り組みを行い準備し医療機関との連携に取り組んでいる。 本人、家族の希望を聞きながら、医療関係と連携しながら、本人が穏やかに安心して生活できるようにサポートしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアに対するの取り組みを行い準備し医療機関との連携に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族と話し合い、ダメージを防ぐ為の情報提供を行っている。 入居者が他の施設に移った場合には、アセスメント・ケアプラン・支援状況など引き継ぎのために必要な情報を伝えることによって、他の施設に移っても引き続き安心して生活できるように、引き継ぎを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録などには、部屋番号やイニシャルを記入し、情報が漏れないように注意している。	○	プライバシーを尊重したケアが徹底されるように取り組み改善したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で本人が意識決定できる働きかけをし、自己決定できるように支援している。 職員が一方的に決めるのではなく、いくつかの選択肢を用意して、そこから本人が自分の意志で決めることができるように取り組んでいる。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の買い物や散歩を入居者の希望を聞きながらコースを決めたり食事も何が食べたいかなど聞きながら入居者の要望・希望を聞くように取り組んでいる。 本人のニーズをもとにケアプランを作成し実践できるように取り組んでいる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみが自分でできる方は本人の望む理美容室に行けるよう支援している。 本人の納得が得られるように馴染みの関係を作り上げる雰囲気作りに取り組んでいる。好みに合わせて支援できるように取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事は力を発揮してもらい準備を手伝ってもらっている。職員も見守りしながら一緒に食事している。入居者に配膳、下膳、盛り付け、洗い物等、手伝っていただいている。 目の見えない方や自力摂取が難しい方にはメニューなどを説明するようにしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は好みに合わせて提供している。おやつも種類の多い時は好みのものを選んで頂くように支援している。 個人の嗜好品は、個別に保管できるように配慮している。個人の嗜好品の購入なども個別に対応している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンと自力で排泄できるように支援し、おむつ着用している入居者に対してもトイレで排泄できるように誘導している。 できる限りトイレで排泄できるように、本人の排泄パターンを考えながら、時間をみてトイレ誘導をするようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、一人ずつ入浴していただき、羞恥心や負担軽減に努め支援している。 スタッフ間の連携プレーにより、入浴拒否の方についても、時間をかけて声掛けし入浴して頂けるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせた就寝時間前の読書、テレビ観賞、日記を書くなどして頂き、安眠できるよう取り組んでいる。 生活リズムを整え、日中の活動を充実させ、眠剤に頼らない生活支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑で野菜を作る、花を活ける、植木鉢の手入れ、歌を歌う、調理の手伝い等、個々に合った役割、楽しみを把握して支援している。	○	出来ない事、出来ていない事でも、どうすれば出来るようになるかを考え取り組み、張り合いのある生活となるように支援したい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常は事務所内でお金を預かっているが外出や買い物時に支払いの出来る入居者には渡し払って頂いている。 外出時、できる限り本人に買い物して頂けるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を要望される入居者には同行し支援している。その他、出掛けられない方はウッドデッキにて日光浴や昼食をとったりなどしている。庭や玄関先でも付き添いながら出かけている。	○	近くの喫茶店へも気軽に行きコーヒータイムを楽しむ時間を設けたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と連携し、動物園や植物園などへの外出に取り組んでいる。個別でドライブや喫茶店などに行くなど取り組んでいる。	○	家族との良好な関係作りの為にも家族に参加して頂く外出の機会をもっと増やしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自己にて携帯電話を所持しておられる方もあり、自由に電話して頂いている。本人宛での電話や手紙にもその都度、対応している。手紙も暑中見舞い・年賀状以外にも個々で手紙を出されている。 手紙や電話をすることが困難な方はスタッフが本人の思いを理解し来訪時や電話の折りに伝えるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰もが自由に訪問できるような雰囲気作りは行っている。訪問された際は居室でゆっくり話ができるように工夫している。 決まった訪問時間などは設けず自由に訪問して頂けるよう取り組んでいる。明るい挨拶を心がけ来訪された方に快い雰囲気を作り出すように取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が介護方針に基づき、拘束をしないケアに取り組む、ミーティング等で常に状況を話し合い理解し実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊する入居者がいても鍵をかけない方針で見守り重視のケアに取り組んでいる。 方針に則り、日中は施錠をしないように取り組んでいる。	○	入居時などに日中、施錠をしない介護方針をうたっていることに対して同意書に記入し説明していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	危険な場所(キッチンコンロの側・階段・浴室等)へ移動する事が無いよう常に目配りしている。 調理などを一緒に行うときは入居者の傍から離れないように取り組んでいる。 玄関のセンサーチャイムが鳴るたびに必ず確認するようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬等の入っている物置には鍵をかけ、管理している。 台所の包丁等の刃物は手の届かないところに保管している。ポンプ式の手洗い石鹸は夜間、棚に移し保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒・窒息・誤嚥についてはスタッフミーティングで話し合い知識を取得するように取り組んでいる。火災は防災係りを決めて、非常ベルの操作方法、非常口の箇所を確認しスタッフ全員で取り組んでいる。 非難訓練などを月1回行い、災害時に落ち着いた行動を入居者・スタッフ共に取れるよう取り組んでいる。	○	他のグループホームや研修などでどのような取り組みをしているかを学び転倒防止等につなげていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、急変時、事故発生時には緊急連絡網で連絡。医療機関、家族に連絡することも取り組んでいる。	○	応急処置の方法等は訓練して自己発生時に備えたい。(骨折・外傷での止血方法等) ケアプランや細かなマニュアル作りをしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の火災・地震訓練を実施し入居者が安全に避難できる方法をシュミレーションしながら取り組んでいる。	○	地域との協力が得られるような働きかえも徐々に行っている。(コミュニティーセンター・民生委員等)さらに地域との連携を深め、自治会との協力が得られるように取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	リスクに対しては家族とよく話し合い対応策を考えている。転倒が最も多く、居室の環境整備にも取り組んでいる。 記録を読んで頂いたり、お話をして日常の入居者の状況を理解して頂くように取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	特変があれば、すぐ報告し、状況の観察、バイタルチェックを行い、職員全員で共有し対応している。早めの対応が大切な事をミーティングで話し合っ常 に申し送っている。 ほんの小さな怪我や状況の異変もスタッフ間で申し送ったり伝達するように取り組んでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬は処方されてきた時点で日付、用法、用量について確認し、個別のケースに収納して、1日分を使用する分として提示している。 名前が入ったボードを利用し、与薬の間違えがないように取り組んでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方には水分を多めに摂取してもらい、体操や散歩等、体を動かして頂くよう働きかけている。 繊維質の多い、食事を取り入れ出来る限り自然に排便できるような食生活送れるよう取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きの実施を毎食後声掛けしている。介助の必要な方も支援しながら行っている。	○	今までの習慣から1日1回すれば毎食後、磨かなくてもよいと考えているの方もあり、毎食後は困難な方もみえる。しかし毎食後口腔ケアができるように改善したい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えながら食品群別に材料を選び工夫しながら献立を考えている。水分も記録し、食事を含まない水分だけでも確保できるように嗜好品(コーヒー・紅茶等)も考慮しながら取り組んでいる。刻み食・ミキサー食・とろみ食等、その方の食べやすい方法を工夫して支援している。毎回の食事に水分摂取ができるように汁物を必ず準備している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の予防として、マスク・手洗い・うがいの実施は早めに対策をとり予防している。	○	衛生担当による予防対策を医療機関・保健所の協力により、さらに進めて取組んでいきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味(消費)期限の確認は必ず行い、早めに使い切る必要のある物はホワイトボードに記入し管理している。調理用具等は毎日、夕食後に消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりが広く、圧迫感を感じない作りとなっており台座も置いている。季節を感じられるように鉢植えの花を置き、訪問された方、近所の方に気軽に安心して来て頂けるように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースも明るく、広く、動きやすい作りとなっている。居間・食堂も日光が取り入れられるように大きな窓として窓を開ければ心地よい風が入ってくる。浴室・脱衣所とトイレが繋がっている事が使用する側にとって大変便利である。季節感を出すためにリビングの壁に入居者と一緒に作った壁飾りなどを飾るように取り組んでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の位置を工夫しながら居場所作りに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や本人の好みの装飾品等で落ち着いた居室作りをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気している。温度調節も入居者の状況に合わせて、きめ細かく配慮しながら調節している。居室が乾燥しやすい為、濡れタオルをかけたり、リビングにはガラスの鉢などに水を張り、加湿をするように取り組んでいる。 夏場は西側の居室にはすだれなどを利用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に入浴出来るよう肘掛け付きのシャワーチェアに変更した。 車いすからリビングの椅子に移っていただけるように肘掛け付きの椅子を増やした。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	扉の前には名称を表示して分かりやすくしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭で畑を作り、季節の野菜を収穫している。ベランダには鉢植えの花を置いて毎日水やりし花を楽しめるように工夫している。 スタッフも緑化係を設け入居者と一緒に相談しながら季節の野菜作りなどに取り組んでいる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)